

**日本農芸化学会
第47回年次大会講演発表データベース**

講演番号	2A19p07
分類	一般講演
講演日時	2004/03/29 14:42
会場	A19
演題	鶏卵抗体(IgY)の高度利用その2?抗 <i>P.acnes</i> IgYの作用機序と応用
発表者氏名	○中野 恵望子、鈴木 晴恵 ¹ 、金 振旭 ² 、兒玉 義勝 ³ 、李 英浩 ² 、金 武 祚
所属	ファーマフーズ研究所、 ¹ 鈴木形成外科、 ² Doosan Biotech、 ³ ゲン・コーポレーション
要旨	<p>【目的】ニキビの原因菌として<i>Propionibacterium acnes</i>(アクネ菌)が知られている。アクネ菌は嫌気性菌であり毛穴の奥深くに存在する常在菌である。このアクネ菌が持つ酵素(Protease)や酵素(Lipase)が皮脂を分解して生じた遊離脂肪酸により炎症(ニキビ)を引き起こす。そこで我々は抗アクネ菌鶏卵抗体(IgY)を用いた炎症改善効果、及びその作用機序について調べた。</p> <p>【方法と結果】作用機序について以下の検討を行った。アクネ菌を培養した培養液に抗アクネ菌IgYを添加し、IgYによるアクネ菌の特異的凝集反応を観察した。酵素阻害試験は培養液にIgYと基質を添加し、基質の濃度変化を調べた。また、ヒト皮膚切片を用いた試験により、毛穴のどの部分までIgYが届くか検証した。次に炎症改善効果の確認としてヒトボランティアによる臨床試験を行った。抗アクネ菌抗体を0.4%含有したローションを2?4ヶ月間炎症部位に塗布した。その結果、炎症低減効果が認められた。</p>

[\[一覧表ページへ戻る\]](#)

[\[検索条件入力画面に戻る\]](#)

Copyright(C) 1997-2011 All rights reserved JSBBA.
Produced by DYNACOM Co.,Ltd.